
「おかえり」

麦子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「おかえり」

【Nコード】

N63050

【作者名】

麦子

【あらすじ】

彼女が好きになった彼は、真っ赤な血が似合う人でした。

（前書き）

冒頭、ほんの少しだけ“血”の描写があります。

あの日。夜の街灯に照らされて返り血を浴びた哀しそうな眼をしたあなたを一目見て、身も心も奪われてしまったあの日から、私は“憧れ”から脱出したかったのです。

さつきから降り続いている小雨の存在を、鬱陶しいとは思わなくなってきたいました。寧ろ、シャワーを浴びているような気持ちのよい心地です。寒さのせいで思考回路も大分危うくなってきたいるのかも知れません。階段に座って、彼を待つこと…何時間でしょうか。時間さえ忘れて待っているなんて、彼が知ったら気味悪がることでしょう。“ウザイ”と言われるかもしれませんが。それでも待つことをやめられないのは、やはり彼のことが好きだからなのでしょうね。例え片想いでも。

にゃあ。

足元を見ると、擦り寄ってくる猫が一匹いらっしやいました。彼の飼い猫です。いいですねえ、きみは。あの人の傍にいられて。温もりも吐息も一番近くで感じられることができます。雨で濡れてしまった毛並みを撫でてやると気持ち良さそうに尻尾をふって私の膝の上に座ってくれました。ああ、なんて愛らしいいきものなのでしょう。

「やあ。」

「私は、寒くないですよ。きみは？」

「やあ。」

「そうですか、大丈夫なのですか。きみのご主人様、遅いですねえにいい。」

「そうですね、濡れていなければいいのですが」
「やあ！」

「どうしたのですか」

「お前、何やってんの？」

待ちわびていた声に顔を上げると、そこには怪訝な表情を浮かべて私を見下ろしている彼がビニール傘片手に立っていました。猫はすりりと私の膝から離れて彼の足に擦り寄っています。気まぐれ屋なところも、また愛らしいです。

「てか、何？お前ずぶ濡れじゃん」

「傘、持っていたんですね。よかった、濡れていなくて」

「コンビニで買ったんだよ。…なあ、もしかしてお前！」

「あ、はい。あなたのことを待っていました」

「は？マジかよ…キモチワリイ事してんなよな」

そう呟いた彼は猫を抱えて、私の横を擦り抜けて二階の自分の部屋に入ってしまった。残念です。やはり、気味悪いと思われるわけてしまいました。それでも、あなたが今日も無事に帰ってくる事ができたのなら私にとってこれ以上の幸せはありません。くしゅん。そろそろ帰ったほうがよいのかもしれない。そう思い、鼻

をすすりながら立ち上がろうとしたら頭に何か大きくてやわらかなものが覆いかぶさってきました。手にとってみると、それはバスタオルでした。上を見上げれば、部屋に入ってしまったはずの彼が真っ直ぐに私を見つめていました。それだけで泣きそうになるほど嬉しかったのに、

「…お前も、早く帰れ」

その声色がとても優しく、胸がきゅんと苦しくなりました。明日こそは「お帰りなさい」と、言えたら。少しでも“憧れ”よりもさらにあなたに近付けることができれば。

例え、あなたが犯罪者だろうとも、人を殺しかけたお人であろうとも、私の張り裂けそうなこの甘やかな想いにはなんの偽りもないのですから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6305o/>

「おかえり」

2010年11月2日13時46分発行